

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2018（2019年更新版）に準拠して作成

軟膏基剤
日本薬局方
<b>白色ワセリン</b>
White Petrolatum JP
（白色ワセリン「ケンエー」）

剤形	軟膏剤
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1g 中 日局 白色ワセリン 1g
一般名	和名：白色ワセリン（JAN） 洋名：White Petrolatum（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 販売開始年月日	製造販売承認年月日：1973年3月31日（許可年月日） 薬価基準収載年月日：1973年3月 販売開始年月日：白色ワセリン「ケンエー」；1973年3月 白色ワセリン「ケンエー」ソフト；2001年6月
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：健栄製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	健栄製薬株式会社 学術情報部 TEL (06) 6231-5822 FAX (06) 6204-0750 医療関係者向けホームページ <a href="https://www.kenei-pharm.com/medical/">https://www.kenei-pharm.com/medical/</a>

本 IF は 2024 年 2 月改訂（第 1 版）の電子添文の記載に基づき改訂した。

最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR）等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、I F と略す）が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）学術第2小委員会がI Fの位置付け、I F記載様式、I F記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がI F記載要領の改訂を行ってきた。

I F記載要領2008以降、I FはPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加したI Fが速やかに提供されることとなった。最新版のI Fは、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）の医療用医薬品情報検索のページ（<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>）にて公開されている。日病薬では、2009年より新医薬品のI Fの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のI Fが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

2019年の添付文書記載要領の変更に合わせ、I F記載要領2018が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

## 2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

I Fに記載する項目配列は日病薬が策定したI F記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・判断・提供すべき事項等はI Fの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された

I Fは、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

I Fの提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

### 3. I Fの利用にあたって

電子媒体のI Fは、PMDAの医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従ってI Fを作成・提供するが、I Fの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やI F作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、I Fの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I Fが改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容を明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I Fの使用にあたっては、最新の添付文書をPMDAの医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V. 5. 臨床成績」や「XII. 参考資料」、  
「XIII. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

I Fを日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。I Fは日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には薬機法の広告規則や医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らがI Fの内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、I Fを活用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

# —目次—

<b>I. 概要に関する項目</b>	<b>1</b>
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的特性	1
3. 製品の製剤学的特性	1
4. 適正使用に関して周知すべき特性	1
5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項	1
6. RMPの概要	1
<b>II. 名称に関する項目</b>	<b>2</b>
1. 販売名	2
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）又は本質	2
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2
<b>III. 有効成分に関する項目</b>	<b>3</b>
1. 物理化学的性質	3
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3
3. 有効成分の確認試験法，定量法	3
<b>IV. 製剤に関する項目</b>	<b>4</b>
1. 剤形	4
2. 製剤の組成	4
3. 添付溶解液の組成及び容量	5
4. 力価	5
5. 混入する可能性のある夾雑物	5
6. 製剤の各種条件下における安定性	5
7. 調製法及び溶解後の安定性	5
8. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	5
9. 溶出性	5
10. 容器・包装	5
11. 別途提供される資材類	6
12. その他	6
<b>V. 治療に関する項目</b>	<b>7</b>
1. 効能又は効果	7
2. 効能又は効果に関連する注意	7
3. 用法及び用量	7

4. 用法及び用量に関連する注意	7
5. 臨床成績	7
<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b>	<b>9</b>
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	9
2. 薬理作用	9
<b>VII. 薬物動態に関する項目</b>	<b>10</b>
1. 血中濃度の推移	10
2. 薬物速度論的パラメータ	10
3. 母集団（ポピュレーション）解析	11
4. 吸収	11
5. 分布	11
6. 代謝	11
7. 排泄	12
8. トランスポーターに関する情報	12
9. 透析等による除去率	12
10. 特定の背景を有する患者	12
11. その他	12
<b>VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b>	<b>13</b>
1. 警告内容とその理由	13
2. 禁忌内容とその理由	13
3. 効能又は効果に関連する注意とその理由	13
4. 用法及び用量に関連する注意とその理由	13
5. 重要な基本的注意とその理由	13
6. 特定の背景を有する患者に関する注意	13
7. 相互作用	14
8. 副作用	14
9. 臨床検査結果に及ぼす影響	14
10. 過量投与	14
11. 適用上の注意	15
12. その他の注意	15
<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b>	<b>16</b>
1. 薬理試験	16
2. 毒性試験	16
<b>X. 管理的事項に関する項目</b>	<b>17</b>
1. 規制区分	17
2. 有効期間	17

3.	包装状態での貯法	17
4.	取扱い上の注意	17
5.	患者向け資材	17
6.	同一成分・同効薬	17
7.	国際誕生年月日	17
8.	製造販売承認年月日及び承認番号，薬価基準収載年月日，販売開始年月日	18
9.	効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	18
10.	再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	18
11.	再審査期間	18
12.	投薬期間制限に関する情報	18
13.	各種コード	18
14.	保険給付上の注意	18

## **X I . 文 献** **19**

1.	引用文献	19
2.	その他の参考文献	19

## **X II . 参 考 資 料** **20**

1.	主な外国での発売状況	20
2.	海外における臨床支援情報	20

## **X III . 備 考** **21**

1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	21
2.	その他の関連資料	21

略語表

なし（個別に各項目において解説する。）

# I. 概要に関する項目

## 1. 開発の経緯

白色ワセリンは、1875年石油の成分から分離されたもので、主として paraffin 基原油から得られる非結晶性軟膏様物質である。一般に petrolatum といわれる。vaseline の名称は元来 Chesebrough 社の登録名であったが、日本、ドイツでは一般化した名称となっている。vaseline には黄色、白色の区別がある<sup>1)</sup>。

## 2. 製品の治療学的特性

該当資料なし

## 3. 製品の製剤学的特性

- (1) 中性で、刺激性がほとんどなく、寒暖により粘稠度があまり変わらず、植物性又は動物性油脂のように光、湿気によって酸敗することが少ない安定な軟膏基剤である。（「VI. 2. (1) 作用部位・作用機序」の項参照）
- (2) 白色ワセリン<sup>ソフト</sup>は、当社従来品の白色ワセリンと比較して「軟らかく」かつ「伸びがよい」物性である。（「IV. 1. (4) 製剤の物性」の項参照）
- (3) 白色ワセリン<sup>ソフト</sup>は、加熱滅菌に耐え、ほとんど変色することがない。（「IV. 1. (2) 製剤の外観及び性状」の項参照）
- (4) 白色ワセリン<sup>ソフト</sup>は、無菌製剤ではないので、眼軟膏用基剤として用いる場合は、滅菌処理すること。（「VIII. 11. 適用上の注意」の項参照）

## 4. 適正使用に関して周知すべき特性

該当しない

## 5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

### (1) 承認条件

該当しない

### (2) 流通・使用上の制限事項

該当しない

## 6. RMPの概要

該当しない

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

- (1) 和名： 白色ワセリン「ケンエー」
- (2) 洋名： White Petrolatum 「KENEL」
- (3) 名称の由来：

### 2. 一般名

- (1) 和名（命名法）： 白色ワセリン（JAN）
- (2) 洋名（命名法）： White Petrolatum（JAN, USP）  
White Soft Paraffin（EP）
- (3) ステム（stem）： 不明

### 3. 構造式又は示性式

該当しない

### 4. 分子式及び分子量

分子式：  $C_{15}H_{32} \sim C_{20}H_{42}$

### 5. 化学名（命名法）又は本質

該当しない

### 6. 慣用名，別名，略号，記号番号

別名： Petrolatum、Vaseline



## Ⅲ. 有効成分に関する項目

(本品の有効成分である日局白色ワセリンについて記述する。)

### 1. 物理化学的性質

#### (1) 外観・性状

本品は白色～微黄色の全質均等の軟膏様の物質で、におい及び味はない。

#### (2) 溶解性

本品は水、エタノール (95) 又はエタノール (99.5) にほとんど溶けない。

本品はジエチルエーテルに澄明又はわずかに不溶分を残して溶ける<sup>1)</sup>。

#### (3) 吸湿性

該当資料なし

#### (4) 融点 (分解点), 沸点, 凝固点

融点 : 38～60°C<sup>1)</sup>

#### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

#### (6) 分配係数

該当資料なし

#### (7) その他の主な示性値

比重 : 0.815～0.880 (60°C) <sup>1)</sup>

### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

本品は加温するとき、澄明な液となる<sup>1)</sup>。

### 3. 有効成分の確認試験法, 定量法

確認試験法 : 日局白色ワセリンの確認試験による。

定量法 : 日局白色ワセリンの定量法による。

# IV. 製剤に関する項目

## 1. 剤形

### (1) 剤形の区別

外用

### (2) 製剤の外観及び性状

白色～微黄色の全質均等の軟膏様の物質で、におい及び味はない。

水又はエタノール（95）にほとんど溶けない。

加温するとき、澄明な液となる。

ソフトタイプは、眼軟膏用基剤としても適当な物性を有する。加熱滅菌に耐え、ほとんど変色することがない。

### (3) 識別コード

該当しない

### (4) 製剤の物性<sup>2)</sup>

	温度	粘度（レオメータ）（mPa・s）
白色ワセリン「ケンエー」	10℃	38532
	20℃	20247
	30℃	4794
白色ワセリン「ケンエー」ソフト	10℃	15150
	20℃	6204
	30℃	1069

### (5) その他

該当しない

## 2. 製剤の組成

### (1) 有効成分(活性成分)の含量及び添加剤

1g 中 日局 白色ワセリン 1g

[抗酸化剤としてジブチルヒドロキシトルエン 0.01mg 配合。]

### (2) 電解質等の濃度

該当しない

**(3) 熱量**

該当しない

**3. 添付溶解液の組成及び容量**

該当しない

**4. 力価**

該当しない

**5. 混入する可能性のある夾雑物**

酸又はアルカリ、硫黄化合物、有機酸類、油脂又は樹脂（純度試験により規制）

**6. 製剤の各種条件下における安定性<sup>3)</sup>**

100g（ソフト）

気密容器で室温に4年間保存した結果、ほとんど変化は認められない。

500g、25g×10（ソフト）、200g（ソフト）、500g（ソフト）

気密容器で室温に3年間保存した結果、ほとんど変化は認められない。

**7. 調製法及び溶解後の安定性**

該当しない

**8. 他剤との配合変化（物理化学的变化）**

該当資料なし

**9. 溶出性**

該当しない

**10. 容器・包装**

**(1) 注意が必要な容器・包装, 外観が特殊な容器・包装に関する情報**

該当しない

**(2) 包装**

500g（ポリエチレン容器）

ソフト 25g×10（アルミラミネートチューブ）、100g（ポリエチレンチューブ）

200g（ポリエチレンチューブ）、500g（ポリエチレン容器）

**(3) 予備容量**

該当しない

**(4) 容器の材質**

製品名	容量	容器	キャップ
白色ワセリン 「ケンエー」	500g	ポリエチレン	ポリプロピレン
白色ワセリン 「ケンエー」 ソフト	25g×10	アルミラミネートチューブ	ポリプロピレン
	100g	ポリエチレンチューブ	ポリプロピレン
	200g	ポリエチレンチューブ	ポリプロピレン
	500g	ポリエチレン	ポリプロピレン

**11. 別途提供される資材類**

該当しない

**12. その他**

該当しない

# V. 治療に関する項目

## 1. 効能又は効果

軟膏基剤（一般軟膏用基剤、眼軟膏用基剤）として調剤に用いる。  
また、皮膚保護剤として用いる。

## 2. 効能又は効果に関連する注意

設定されていない

## 3. 用法及び用量

### (1) 用法及び用量の解説

軟膏基剤（一般軟膏用基剤、眼軟膏用基剤）として調剤に用いる。  
また、皮膚保護剤として用いる。

### (2) 用法及び用量の設定経緯・根拠

該当資料なし

## 4. 用法及び用量に関連する注意

設定されていない

## 5. 臨床成績

### (1) 臨床データパッケージ

該当しない

### (2) 臨床薬理試験

該当資料なし

### (3) 用量反応探索試験

該当資料なし

### (4) 検証的試験

#### 1) 有効性検証試験

該当資料なし

#### 2) 安全性試験

該当資料なし

**(5) 患者・病態別試験**

該当資料なし

**(6) 治療的使用**

- 1) **使用成績調査（一般使用成績調査，特定使用成績調査，使用成績比較調査），製造販売後データベース調査，製造販売後臨床試験の内容**

該当資料なし

- 2) **承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要**

該当資料なし

**(7) その他**

該当資料なし

# VI. 薬効薬理に関する項目

## 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

黄色ワセリン

注意：関連のある化合物の効能・効果等は、最新の電子添文を参照すること。

## 2. 薬理作用

### (1) 作用部位・作用機序

中性で、刺激性がほとんどなく、寒暖により粘稠度があまり変わらず、植物性又は動物性油脂のように光、湿気によって酸敗することが少ない安定なすぐれた軟膏基剤である。吸水性と皮膚への浸透性が少なく、粘着性が強いが、ロウ、ステアリルアルコール、ラノリンなどを添加すれば吸水性は増加する<sup>1)</sup>。

### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

# VII. 薬物動態に関する項目

## 1. 血中濃度の推移

### (1) 治療上有効な血中濃度

該当しない

### (2) 臨床試験で確認された血中濃度

該当しない

### (3) 中毒域

該当しない

### (4) 食事・併用薬の影響

該当しない

## 2. 薬物速度論的パラメータ

### (1) 解析方法

該当しない

### (2) 吸収速度定数

該当しない

### (3) 消失速度定数

該当しない

### (4) クリアランス

該当しない

### (5) 分布容積

該当しない

### (6) その他

該当しない



### 3. 母集団（ポピュレーション）解析

#### (1) 解析方法

該当しない

#### (2) パラメータ変動要因

該当しない

### 4. 吸収

該当しない

### 5. 分布

#### (1) 血液－脳関門通過性

該当しない

#### (2) 血液－胎盤関門通過性

該当しない

#### (3) 乳汁への移行性

該当しない

#### (4) 髄液への移行性

該当しない

#### (5) その他の組織への移行性

該当しない

#### (6) 血漿蛋白結合率

該当しない

### 6. 代謝

#### (1) 代謝部位及び代謝経路

該当しない

#### (2) 代謝に関与する酵素（CYP等）の分子種，寄与率

該当しない

**(3) 初回通過効果の有無及びその割合**

該当しない

**(4) 代謝物の活性の有無及び活性比, 存在比率**

該当しない

**7. 排泄**

該当しない

**8. トランスポーターに関する情報**

該当しない

**9. 透析等による除去率**

該当しない

**10. 特定の背景を有する患者**

該当しない

**11. その他**

該当しない

## **VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目**

### **1. 警告内容とその理由**

設定されていない

### **2. 禁忌内容とその理由**

設定されていない

### **3. 効能又は効果に関連する注意とその理由**

設定されていない

### **4. 用法及び用量に関連する注意とその理由**

設定されていない

### **5. 重要な基本的注意とその理由**

設定されていない

### **6. 特定の背景を有する患者に関する注意**

#### **(1) 合併症・既往歴等のある患者**

設定されていない

#### **(2) 腎機能障害患者**

設定されていない

#### **(3) 肝機能障害患者**

設定されていない

#### **(4) 生殖能を有する者**

設定されていない

#### **(5) 妊婦**

設定されていない

#### **(6) 授乳婦**

設定されていない

**(7) 小児等**

設定されていない

**(8) 高齢者**

設定されていない

**7. 相互作用**

**(1) 併用禁忌とその理由**

設定されていない

**(2) 併用注意とその理由**

設定されていない

**8. 副作用**

**11. 副作用**

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

**(1) 重大な副作用と初期症状**

設定されていない

**(2) その他の副作用**

**11.2 その他の副作用**

	頻度不明
皮膚	接触皮膚炎

**9. 臨床検査結果に及ぼす影響**

設定されていない

**10. 過量投与**

設定されていない

## 11. 適用上の注意

### 14. 適用上の注意

#### 14.1 薬剤調製時の注意

本剤は無菌製剤ではないので、眼軟膏用基剤として用いる場合は、滅菌処理すること。(ソフトのみ)

#### 14.2 薬剤使用時の注意

本剤は天然物（石油）由来の原料を使用しているため、若干性状が異なる場合もあるが、品質に問題はない。

## 12. その他の注意

### (1) 臨床使用に基づく情報

設定されていない

### (2) 非臨床試験に基づく情報

設定されていない

# IX. 非臨床試験に関する項目

## 1. 薬理試験

### (1) 薬効薬理試験

「VI.薬効薬理に関する項目」の項参照

### (2) 安全性薬理試験

該当資料なし

### (3) その他の薬理試験

該当資料なし

## 2. 毒性試験

### (1) 単回投与毒性試験

ヒト経口推定致死量：15g/kg 以上<sup>4)</sup>

### (2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

### (3) 遺伝毒性試験

該当資料なし

### (4) がん原性試験

該当資料なし

### (5) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

### (6) 局所刺激性試験

該当資料なし

### (7) その他の特殊毒性

該当資料なし

# X. 管理的事項に関する項目

## 1. 規制区分

製剤：該当しない（処方箋医薬品以外の医薬品である）

有効成分：該当しない

## 2. 有効期間

有効期間：100g（ソフト）：4年

その他：3年

## 3. 包装状態での貯法

貯法：室温保存

## 4. 取扱い上の注意

該当しない

## 5. 患者向け資材

患者向医薬品ガイド：なし

くすりのしおり：あり

その他患者向け資材：なし

## 6. 同一成分・同効薬

同一成分薬：日局白色ワセリン（各社）、プロペト®（丸石製薬）

## 7. 国際誕生年月日

不明

8. 製造販売承認年月日及び承認番号，薬価基準収載年月日，販売開始年月日

販売名	製造販売承認 年月日	承認番号	薬価基準収載 年月日	販売開始 年月日
白色ワセリン 「ケンエー」	1973年3月31日 (許可年月日)	27A2X00029 (許可番号)	1973年3月	1973年3月
白色ワセリン 「ケンエー」 ソフト	1973年3月31日 (許可年月日)	27A2X00029 (許可番号)	1973年3月	2001年6月

9. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

10. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

11. 再審査期間

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

13. 各種コード

販売名	厚生労働省薬価 基準収載医薬品 コード	個別医薬品コード (YJコード)	HOT (9桁) 番号	レセプト電算 処理システム 用コード
白色ワセリン 「ケンエー」	7121703X1089	7121703X1089	111696010	620001705
白色ワセリン 「ケンエー」 ソフト	7121703X1089	7121703X1089	111696010	620001705

14. 保険給付上の注意

該当しない



# X I . 文 献

## 1. 引用文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書. 廣川書店. 2021 : C-6371-6374
- 2) 健栄製薬株式会社 社内資料 : 白色ワセリン・ソフトと日局白色ワセリンの物性等について
- 3) 健栄製薬株式会社 社内資料 : 白色ワセリン「ケンエー」の経時安定性について
- 4) 鶴飼 卓 監修 : 第三版 急性中毒処置の手引ー必須 272 種の化学製品と自然毒情報ー, p54, 薬業時報社, 1999.

## 2. その他の参考文献

該当資料なし

## **X II . 参考資料**

### **1. 主な外国での発売状況**

海外では発売されていない（2024年2月時点）

### **2. 海外における臨床支援情報**

該当資料なし

## **XIII. 備考**

### **1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報**

#### **(1) 粉碎**

該当しない

#### **(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性**

該当しない

### **2. その他の関連資料**

- ・ 健栄製薬株式会社医療関係者向け WEB サイト

<https://www.kenei-pharm.com/medical/>